

研究専門部会長所見

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学情報科学センター 公開日: 2012-06-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 鎌田, 弘之 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/13016

【研究専門部会長所見】

鎌田 弘之

2002年4月に研究専門部会長をお引き受けして約半年が経過しました。前任者である理工学部富澤先生、ならびに長年にわたって情報科学センターの運営に関わっている方々から多くのことを学ぶ半年となっております。一日も早く流れをつかみ、お役に立てるよう努めていきたいと思ひます。

研究専門部会として取り組むべき活動の目的は、自主ゼミ、研究会、講演会などを通じ、情報に関わる専門的な知識・技能を有する人材の育成にあります。2001年度には、前任者およびスタッフ会各位、各システム課関係各位のご努力によって、「量子コンピュータゼミ」および講演会、第7回情報教育研究会、第1回情報技術研究会が開催されています。これらは学生への情報に関わる教育・研究支援、教員への研究支援のみならず、現実に情報科学センターの活動を支えるSEの方々への支援としても重要です。特に情報技術は、歩みを止めればすぐに陳腐化することが宿命付けられているほど流れの速い分野だけに、SEの方々への負担は今後も否応無しに増加しかねません。研究専門部会としては、スタッフ会メンバーに教をを請いながら、凍結中のシステム開発研究員制度の立ち上げについて理解をいただき、スキル向上の場を提供できるよう努力したいと思ひます。

一方、現在までに私が関わった仕事は、教育用・研究用高額ソフトウェアの購入に関するものであり、ここでも情報科学センターの役割について、深く考える機会を得ることができました。情報科学センターが各学部にてできる支援については、センター所有の計算機設備、ネットワークおよびそれらを利用するソフトウェアによるサポートが主であったと思ひます。研究用高額ソフトウェアの購入をベースに考えれば、これからも十分な支援は可能であり、各先生方には積極的に活用してもらって、ポテンシャルの高い研究の一助となれば良いと思ひます。しかしながら、教育用ソフトウェアについては、各学部の教育に密接に関わるだけに、情報科学センターとしても解決しなければならない問題を抱えているものと思ひます。特に、今後急速に各学部へ導入されていくであろうe-Learningに対する支援のあり方については、これまでとは全く異質なサービスを実現する必要があります。この問題については、各学部で必要なシステムが乱立し、各学部におけるコンピュータに関わる仕事が増加する前に、コンピュータの専門家集団である情報科学センターとして解決すべき課題であると考えます。